Financial Academy

FX TREADING

外貨投資・FXスクール

教科書見本

vol.1　study 1-1

FXの全体像

FXはここ最近、急に人気が出てきた金融商品ですが、一体どのような商品で、どういった点が魅力なのでしょうか。FXの歴史と魅力について簡単に確認しておきましょう。

外国為替証拠金取引（FX）とは

FXとはForeign Exchangeの略語です。FX取引会社に取引する資金である「証拠金(保証金)」*を預けて外貨を取引することを「外国為替証拠金取引(FX)」といいます。

このFXのメリットは大きく5つあります。

1.少額からレバレッジを効かせて取引できる
2.円安でも円高でも利益を得るチャンスがある
3.スワップポイントがもらえる
4.手数料が安い
5.24時間いつでもどこでも取引ができる

1つ目は、証拠金(保証金)を預け入れて、その額の何倍もの取引ができる点です。

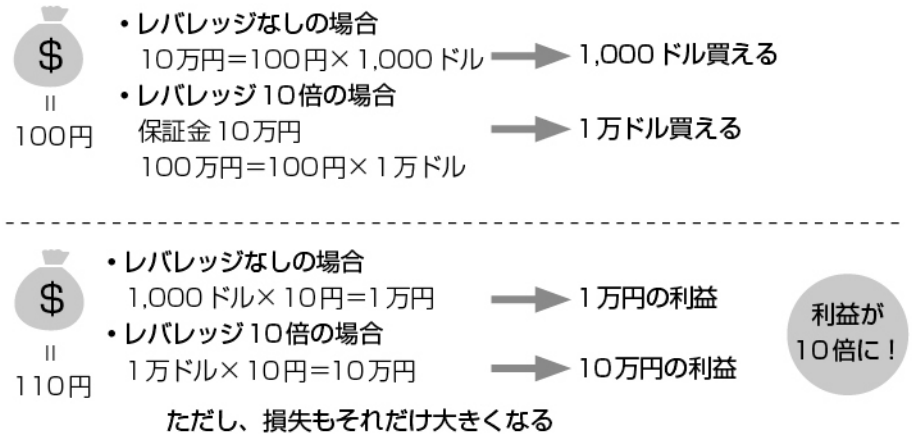
FXでは、その名の通り、一定の証拠金(保証金)を預けることにより、その10倍、20倍の金額の外貨を取引することができます。

例えば、1ドル100円のときに、10万円分（1,000ドル）を買ったときと、10万円を証拠金として預け入れて、その10倍の100万円分（1万ドル）を買ったときをイメージしてみましょう。もしも為替レートが10円、円安に動いたとすると、前者では1万円の利益になりますが、後者では10万円の利益になります。

資金は同じ10万円であるにもかかわらず、前者では1万円だった利益が、後者では10万円になるわけです。これが、レバレッジです。

レバレッジ効果

資金が10万円あった場合



? 用語解説

証拠金（保証金）
FX(外国為替証拠金取引)を行うためには、FX取引会社(取引業者)に口座開設をし、一定の資金を担保として預け入れます。この資金のことを「証拠金」または「保証金」といいます。

ただし、レバレッジはメリットばかりではありません。為替レートが期待と反対に動けば、それだけ損失も大きくなるということを覚えておきましょう。レバレッジと上手に付き合えることは、FX取引をやっていくうえでとても重要なスキルといえます。

2つ目は、外貨の価値が上がっても下がっても(円安でも円高でも)利益を上げられるという点です。

FXでは、為替レートの変動を利用して利益を得ることができます。為替レートの変動を利用して得られた売却益のことを為替差益と呼びます。例えば、円高のときにドルを買い、円安のときにドルを売ると利益が出ます。これが為替差益です。

ところがFXでは、円安のときにドルを売り、円高のときに買い戻すことでも利益を得ることができます。上昇局面だけではなく、下落局面でも利益を上げられるということは、為替相場に関係なくいつでもスタートできるという、大きなメリットにつながります。

昔は、外貨商品といえば、長期保有が前提のために数年後に増えていることを期待して日頃の為替レートの値動きはあまり気にしないというスタイルがほとんどでした。しかし、円高トレンドになった場合はほとんどの外貨建て金融商品*で損失が膨らみます。

そして通常、円高トレンドは2年程度は続くためにかなりの期間、大きな含み損*を抱えたまま我慢しないといけないことになるのです。

一方、FXであれば、円高トレンドであっても利益をあげることができます。これにより、為替相場のトレンドに関係なく、いつでも利益を狙うことが可能になったのです。

そして3つ目は、スワップポイントがもらえるという点です。

スワップポイントとは、日本語に訳すと「金利差調整額」のことを言います。FXでは、低金利の通貨を売り、高金利の通貨を買うことで、このスワップポイントを毎日受け取ることができます。

4つ目は、手数料が安いという点です。

FXは、外貨預金などの外貨商品と比べ、為替手数料が安いのが特徴です。また、取引手数料についても無料のFX会社が数多くあります。

特に少額で取引をする人、頻繁に取引をする人にとって「手数料が安い」ということは利益を出すうえで大きな優位性になります。

最後は、24時間取引ができるという点です。

FXの取引現場である為替のマーケットは、24時間、常に地球上のどこかで開いています。ですから、昼間は会社で働いているという人でも、帰宅後や休憩時間にリアルタイムで取引をすることができます。

このように、FXには大きく5つの魅力があります。これらの魅力が追い風となって、大きなブームを呼び起こしたのです。

? 用語解説

外貨建て金融商品
円をドルやユーロなどの外貨に換えて行う金融商品(株式・投資信託・外国為替など)をいいます。

? 用語解説

含み損
為替や株式の保有資産が、現在の価格(時価)の購入価格(簿価)よりも低い場合に、その差額のことをいいます。これは、ある時点での潜在的な損失額のため、実際に売却するまで金額は確定しません。

vol.3　study 2-2

マージンコールと強制決済

FX取引において損失が膨らんでくると、取引会社から連絡がきたり、強制的に取引を終了させられたりします。マージンコールと強制決済について正しく理解しましょう。

マージンコールを理解しよう

FX取引で、評価損がある一定の水準を超えたら（取引会社によって違う）、取引会社から「追加証拠金を入れてください」というお知らせがきます。これをマージンコール*といいます。

口座に入っている証拠金の金額から評価損を引いた金額が取引に必要な証拠金（最低証拠金）に近づいてくるとマージンコールが発生します。

口座のお金から評価損を引いたものを、取引に必要な証拠金で割った数値を、維持率と呼びます。会社によっても違いますが維持率が150％程度を割り込んできたら危険です。

（口座のお金－評価損）＝維持（最低）証拠金となってしまえば強制決済になります。マージンコールは連絡のみですが、強制決済では損失が確定します。ですから、マージンコールが発生したら、速やかに追加証拠金を入れるか、ポジションを調整しなければいけません。

維持率の計算方法

維持率 ＝（口座のお金－評価損）÷ 維持（最低）証拠金 × 100（%）

例えば、口座に20万円あり、評価損がマイナス14万円になっていて、１ドル＝100円で１万ドルのポジションを持っている場合の維持率は次のようになります。

維持率 ＝（20万円 － 14万円）÷ 4万円 × 100 ＝ 150（%）

！ ここが大切

マージンコールは連絡のみですが、強制決済では損失が確定します。

？ 用語解説

マージンコール
追加証拠金のお知らせ。放っておくと強制決済されることがあります。

強制決済とは

マージンコールが発生したのに、そのまま証拠金を入れなかった場合、さらに損失が膨らむと投資家の同意がなくても決済されてしまいます。これを強制決済といいます。

（口座のお金－評価損）＝維持（最低）証拠金

例えば、１万ドルを１ドル＝100円のレートで買った場合、口座のお金から評価損を引いた金額が維持（最低）証拠金である４万円になったところで強制決済となり、４万円だけお金が残って、ポジションは決済されてなくなってしまいます。

もちろん、資金をすべて失うことにはなりませんが、激減してしまいます。強制決済になる前に自分で取引をやめる（損切りをする）ことが重要です。

強制決済は口座に入っているお金以上に損失が出ないようにしてくれる安全装置のようなものといえます。

マージンコールや強制決済を防ぐためには

1．レバレッジを低くする

2．早めに損切りをする（ストップ注文*などを入れておく）

レバレッジが100倍以上のような会社では、強制決済はギリギリのところで発動されるために証拠金はわずかしか残りません。100万円の証拠金がわずか数万円程度になってしまうこともあるので注意しましょう。

通貨は数年単位の変動でレートが2倍近くになる場合があります。例えば、NZドルは40～100円程度を数年サイクルで動いています。ポンドは1992年のポンド危機の時、120円程度まで下がりました。2007年には250円程度まで上昇しましたが、リーマン・ショック後に116円という安値をつけました。レバレッジを上げるとスワップポイント収入は増えますが、マージンコールや強制決済になる可能性が高まりますので注意が必要です。

ワンポイント

ポジションを持つときにどこまで損失が膨らんだら取引を止めるかを最初に決めておくことが大事です。

用語解説

ストップ注文
ストップ注文とは、損切りを円滑に行うために、損失の許容範囲額内に置いておく自動注文のこと。目を離したときに大きな値動きをして、損失が増えてもストップ注文を入れておけば、一定以上は増えない。

ワンポイント

日本ではレバレッジの規制があり、国内のFX業者による個人取引は25倍までと決められています。海外では、その規制は対象外となるため、1000倍もの取引を扱うFX業者があります。

vol.4　study 3-3

IFO（アイ・エフ・オー）注文

新規の注文と決済の注文２つを同時に出せます。自分の立てたシナリオ通りに自動で売買が行われる、とても便利な注文方法があります。

シナリオ通りの売買が可能に

IFO注文はIFD注文とOCO注文を組み合わせた注文方法です。

IFDでは、新規の注文と一対の決済注文しか出せませんでした。また、OCOでは、新規の注文か決済の注文かのどちらかでしか使えません。新規の注文を出しておいて、同時に利益確定と損切りの注文を出しておければ完全に自分のシナリオ通りに売買することができ、なおかつ時間がなくても空いている時間を少し使うだけで取引に参加できます。これらのぜいたくな問題を解決してくれる自動売買機能がIFO注文なのです。

FXの世界では自動売買機能は株よりも進んでいます。つまり、相場の変動に対して損失許容範囲を事前に計算して、それにもとづいて損切りの注文を必ず入れておくということを習慣づけることができれば、大きな損失はほとんど防ぐことができるのです。

FXのマーケットでは、まれに値段が飛ぶこともありますが事前に入れておいた指値注文などが大幅に飛んで約定するということはほとんどありません。成行注文の場合はマーケットのレート変動が激しくてなかなか注文が通らずにあっと言う間にレートが動いてしまって損切りが上手くできなかったということもあります。

（外為どっとコムウェブサイトより）

ここが大切

多彩な注文方法の一番上手な活用はIFO注文です。リスクを抑えて利益を得るためにぜひマスターしましょう。

また、急激なレート変動が起こるような非常事態にはコンピューターの回線などがいっぱいになり、アクセスが難しくなることもあります。このような場合も損切りが遅れて大きな損失が出ることがあります。

万が一の相場変動に事前に備えることが損失を最低限に抑える上では最も重要なポイントとなってきます。そのためにもIFO注文の使い方は覚えておいたほうがいいでしょう。

ワンポイント

しばらく相場が見られないような時はIFOを使うとリスク管理ができて便利です。

損失限定で利益を狙う

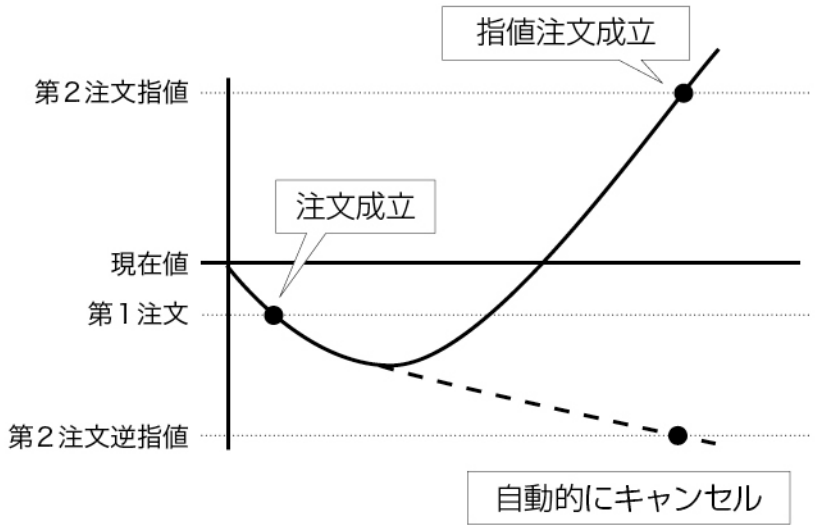
IFO注文では、「ドル／円」が103円になったら買って、その後105円になったら利益確定の売りの注文、102円になったら損切りの売りの注文という3つの注文を一括して予約しておくことができます。

もちろん、新規の注文が通ってから決済注文が出されます。また、決済注文は利益確定の注文と損切りの注文のどちらが先に通るかによって変わります。先に通ったほうの決済注文が実行され、もう一方の注文はこの時点でキャンセルになります。

もちろん、運が悪ければ損切りの注文が通って損失確定となりますが、損失金額はあらかじめ想定した範囲内におさまります。1回の取引では負けてもトータルで利益が出ればよいので、次の取引で利益を狙うようにすればよいのです。FXでは、勝率よりも利益が出るかどうかということが大事です。

また、IFO注文を複数出しておくことによって、かなり複雑な注文を出しておくことができます。どのような注文が出せるのかをあらかじめ研究しておくとさまざまな場面で活用できます。「こうなったら買い、こうなったら決済」という頭の中のシナリオを、自動売買に置き換える練習をしておきましょう。

IFO注文



vol.5　study 2-1

金利差が為替レートに影響を与える

お金は金利の低い国から高い国に流れると言われています。金利の高い国の通貨は買われて金利の低い国の通貨は売られて、為替レートにやがて大きな影響を与えます。

国によって違う金利

世界では、預金金利が高い国と低い国があります。国によって金利が違うのは、基本となる政策金利が違うからです。国内の景気と物価によって、各国の中央銀行が政策金利を決めています。金利を決めるのは、金利は日本であれば、日銀総裁、米国であればFRB議長の役割です。

金利の上下によって、景気をコントロールする

金利差が生まれるのは、各国で経済状態が異なるからです。景気がよく、物価が上昇しインフレーションが起こりそうな国なら、中央銀行は金利を上げて、過熱気味の景気をクールダウンさせようとします。金利を上げることでお金を借りにくくして過度な投資を抑える効果があります。

反対に、不景気で誰も投資を考えずお金がまわらない国の場合は、中央銀行は金利を下げてお金を借りやすくします。投資を増やして、経済が効率よくまわるように手助けをしたいからです。

キャリートレードが為替を動かす

キャリートレードというのは、一般的な外国為替取引のことを指す場合もありますが、ここでは各国の金利差を利用した商取引のことを指しています。

金利が高いということは、お金が借りづらくなるという側面がありますが、両面思考で考えると、お金を預けると確実に増えるという側面もあります。

たとえば、金利が１％しかない国の銀行に預けるよりも、金利が５％の国の銀行に預けた方が、お金が増えるスピードは５倍になります。この金利差に目をつけた外為取引がキャリートレードです。

日本は、ここ20年ずっと金利の安い国でした。日本円を借りて、他の金利の高い国で運用すれば、労せずして数%の利息がもらえる取引ができます。

そのため日本円を売って、金利の高いオーストラリア・ニュージーランドのドルを買うという外為取引が日本中でも大ブームになったことがありました。（銀行が薦めた商品は豪ドルやNZドルの外貨定期預金。当時でも破格の金利5.3%（豪ドル１年物）がつき、多くの人がこの金融商品を買いました）

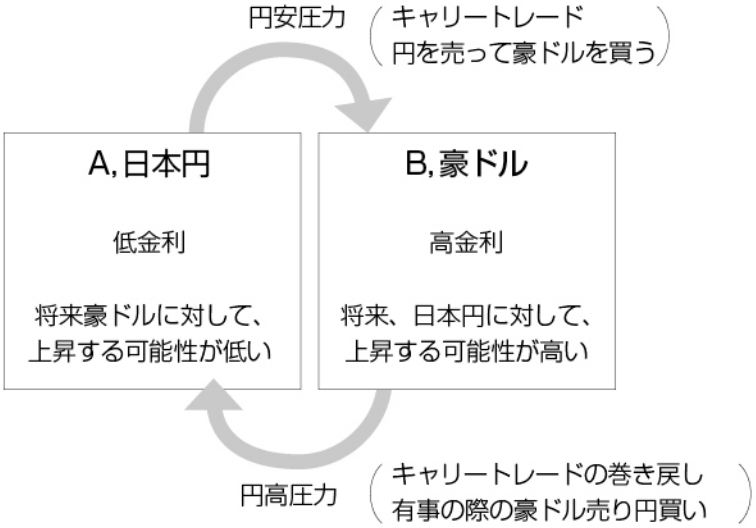
キャリートレードに使われるお金の条件

キャリートレードとは、金利差に着目した取引方法のひとつです。低い金利の通貨を借りて、それを売って、高い金利の通貨を買い、その資金を値上がりが見込めそうな資産あるいは確定利付きの金融資産に投資する取引です。

日本円は、低金利政策や量的緩和政策を行っていたので、資金調達通貨に最適でした。

キャリートレードのポジションメイクの仕組み

（円を借入れて）円を売って豪ドルを購入



高金利通貨（運用先）の選び方は、将来にわたって低金利通貨に対して通貨の価値が下落しないことが条件です。正確にいうとAとBの金利差以上に下落しないことです。

これはどういうことかというと、カントリーリスクのある国の金利は異常に高金利になっている場合があります。歴史的には、ジンバブエの通貨の金利は数百%だったこともあります。もしも、ジンバブエを運用先に選んでしまうと高い金利を受け取れるかもしれませんが、同時に激しいインフレが起きて、通貨の価値そのものが大幅に下落してしまうリスクがあります。年率で数百%の金利がついても、通貨の価値がそれ以上のスピードで下落してしまっては、投資はマイナスになる可能性が高いと言えます。

キャリートレードの巻き戻し

ポジションを整理する時は、上の図の場合、豪ドルを売って円を購入し、円の借入を返済するので、強い円高圧力になります。リーマンショックや東日本大震災など有事の際は、海外で運用されている日本円は一斉に買い戻され円高圧力となり、一気に円高が進んでしまう一因となりました。

vol.6　study 1-2

順相関の場合

順相関とは、同じように動く通貨ペア同士のことを指します。リスクを減らすという視点では、同じように動くものを買ってしまうことは危険だと述べました。順相関の場合のポジションのとり方を学びましょう。

リスクを減らすためにも相関の考えは重要

「ユーロ／円」と「フラン／円」は順相関であることがチャートからわかります。

（外為どっとコムウェブサイトより）

（外為どっとコムウェブサイトより）

ここが大切

順相関と逆相関ではポジションの取り方が異なります。

順相関の場合は逆のポジションをとる

「ユーロ／円」と「フラン／円」は同じように動いているのがわかります。ユーロ／円が下落する局面ではフラン／円も下落しています。

・ユーロ／円は、135.51円（10月高値）から131.23円（11月安値）と4.3円程度下落しています。
・フラン／円は、109.76円（10月高値）から106.79円（11月安値）と3円程度下落しています。

完全にリスクヘッジできなくても下落分の７割から８割分はカバーできることがわかります。

FXでは、証拠金不足になるのを防ぐことができれば、多少の含み損は仕方ないと考えることが重要です。投資では全く損をしないことは不可能なので、いかに損失を抑え込むかということがリスク管理の要点になります。

順相関の場合は、長期戦略の場合はできるだけ「買い通貨」をスワップポイントのたくさんもらえる通貨にし、「売り通貨」をスワップポイントの支払いの少ない通貨にするのが得策ですが、明らかに下がりそうな通貨はいくらスワップポイントが高くても買い通貨にするのは危険です。

クロス円は連動性が高いものが多いので、全て買いポジションにすると暴落時には大損失となります。

vol.10　study 1-2

金利と為替

日本の金利が上がると円高になる、米国の金利が上がるとドル高になる、または、為替相場が円高になると金利が下がる、逆に為替相場が円安になると金利が上がるといった話を聞いたことがあるかもしれません。為替と金利にはどのような関係にあるか確認していきましょう。

為替相場が要因で金利が動く場合

為替相場というのは、通貨の交換価値を表すもので物価や金利と密接に関係しています。まずは、為替相場が主導して金利が変動するケースを見ていきます。まずは、何らかの要因で円高になったことをイメージしてください。ここでは、円高を円の価値が高くなると考え、外国製品がたくさん安く買えるということになります。その結果、海外からの石油、食料品、原材料などの輸入品が安く買えることになり、輸入物価が下がり、全体の物価も下がります。最終的には、物価下落による金利の低下につながります。

反対に、為替相場が円安になった場合をイメージしてください。円安というのは、円の価値が下がるということを意味しますので、海外製品が少ししか買えなくなるということになります。海外からの石油、食料品、原材料などの輸入品の値段が高くなります。つまり、日本国内の物価は上昇します。物価の上昇は金利の上昇につながりますので、この結果、為替相場の円安は金利の上昇を招くことになるのです。

金利変動が要因で為替が動く場合

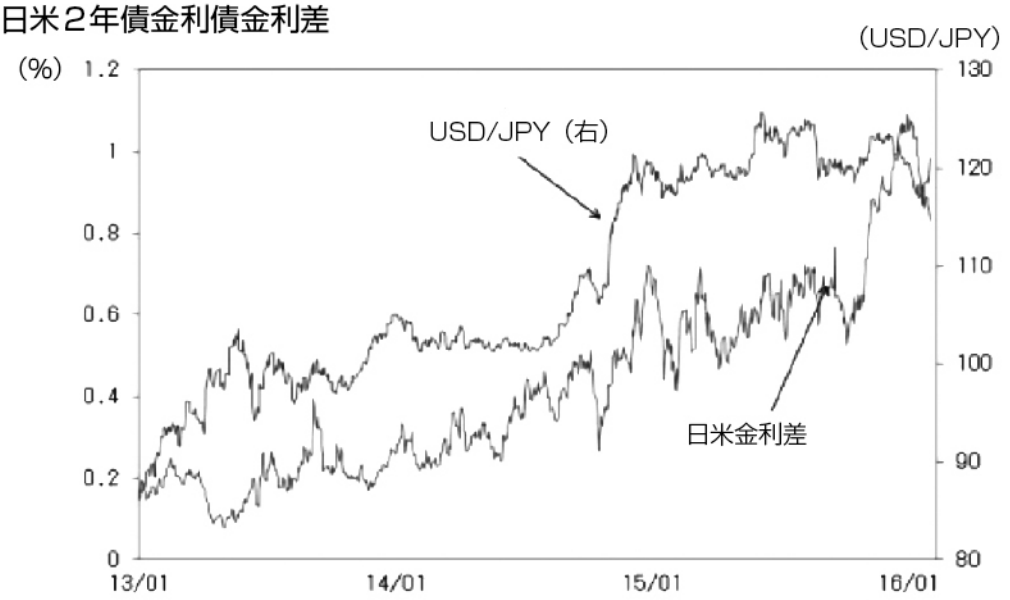
まずは、米国の金利が上がった場合をイメージしてください。その時、日本の金利が動いていなければ、日本と米国の金利差が拡大します。これを日米金利差といいます。この場合は、日本の低金利の金融商品に投資するよりも、高金利の米国の金融商品に投資した方が有利になります。このように金利差が拡大すると、円をドルに換えて米国の金融商品を買おうとする円売り・ドル買いが世界的に起こりドル高円安になります。

次に、反対のケースを考えてみましょう。米国の金利が下がった場合をイメージしてください。その時、日本の金利が動いていなければ、日本と米国の金利差が縮小します。この場合、金利的な魅力を失った米国の金融商品に投資を行うよりも、日本の金融商品に投資した方が有利になりますから、ドルを円に換えて日本の金融商品を買おうと円買い・ドル売りが進み円高ドル安になっていきます。

ドル円の為替予測には２年物国債の金利差を使う

なぜ、2年物国債の金利を使うかというと、1年物の金利は、資金需給の影響を受け易く経済の状況を表していない場合があります。また、国債の代表格である10年物は、各国の財政状況の影響を受けやすいとされ経済の状況を表していない場合があります。そのため為替レートの分析では2年物国債の金利を使用することが主流とされています。

日米２年債金利債金利差



（Bloombergウェブサイトより）

さて、日米２年物国債の金利差は上記グラフでも分かるように非常に高い相関関係を持っています。また、2000年以降は2年債の金利差と為替レートの相関はかなり高いといえます。日本が長らくゼロ金利であることから、ドル円相場は米国の2年債の金利水準で左右されるといえそうです。つまり、ドル円相場はアメリカの2年債利回りの方により強く影響を受けているので、米国債に注意が必要ということになります。

vol.12　study 1-3

移動平均線乖離率

代表的な分析方法の１つとして移動平均線がありますが、価格は移動平均線と大幅に乖離*するとやがて修正されるという法則があります。これをテクニカル分析に活かすことができます。

移動平均線の乖離の目安は？

移動平均線乖離率は、他のオシレーター指標と同様にチャートの下に表示して、逆張りの指標として使うことができます。

下図は、ドル円チャートに移動平均線乖離率を表示したもので、25日移動平均線に対しての乖離率を表示しています。

25日移動平均線の場合の目安としては、5%が1つの目安になります。下のチャートを見ても、大きな陰線をつけたタイミングで乖離率が４～５%のタイミングで一旦リバウンドしていることが見られます。

（楽天証券ウェブサイトより）

? 用語解説

乖離
言葉の意味としては、「離れている」という意味になり、FXや株式投資の場合は移動平均線と価格がどの程度放れているのかを表しています。

移動平均線乖離率の注意点

移動平均線は、日々の値動きの平均をならして、1本の線にしたものです。為替レートの目安になりますが、トレードに使う場合は、以下のポイントに留意しながら活用しましょう。

①逆張り投資になる

移動平均線乖離率を取引に使っていく場合は、行き過ぎた価格の修正になります。

25日の移動平均線に対しては、価格が急騰した時の一端の修正や、急落した時の一端のリバウンドなので、どちらもトレンドに逆らっていることになることが多くなり、その場合は短期でのエントリーとなります。

②通貨ペアによって基準が異なる

25日移動平均線に関しての5%という目安はあくまでも、ドル円においての1つの目安です。よりボラティリティの高い通貨ペアに関しては、基準となる水準がこれを上回ることがありますので、注意して使用しましょう。

下図は、ドル円よりも値動きが激しい傾向のあるポンド円の日足チャートです。この時期のポンド円は、5%以上乖離する場面が3回ありました。さらにブレグジット*（イギリスのEU離脱）の国民投票で下がったときは、乖離率として10%を超え、そこからさらに下落し続けています。

このように、取引で使用する場合は短期的なリバウンドを狙うことや、トレンドには逆らっていることをしっかりと念頭に置いた上で利用していく必要があります。

（楽天証券ウェブサイトより）

? 用語解説

ブレグジット
Brexit（ブレグジット）とはBritain（英国）とExit（退出する）を組み合わせた造語です。2016年6月23日、イギリスがEU加盟国を離脱するかを問う国民投票が行われ、市場の残留予想に反して離脱派が勝利し、一時為替相場が大きく動きました。

vol.15　study 1-5

資金配分

投資資金が尽きては相場に残ることができません。投資を始める前に、必ずしなければならないことは資金管理です。

相場に残ることができる資金配分を考える

相場に残るためには、投資資金がいくらで、その投資資金は生活資金と別であるかをまずは確認しましょう。

この投資資金を仮に全額失っても生活に支障がないと分かった時点で、すでに取引における恐怖心を排除することができます。

次に、その投資資金を３ヵ月に配分してみましょう。例えば、投資資金が300万であれば､毎月100万円ずつ失っても３ヵ月投資を継続することができます。ここで３ヵ月を選択したのは、最短期間の目安として選択してということを覚えておいてください。為替相場においては、１～２ヵ月ベタ凪相場が続くことがあります。ベタ凪相場とは、市場に様子見ムードが蔓延して、低いボラティリティで日和見主義が台頭する相場です。

ただし､相場が3ヵ月もベタ凪で続くことはあまりありません｡それは､プロのトレーダーたちが収益機会を求め我慢ができなくなり､仕掛けをしてくるからです。ここで、3ヵ月としたのは、このような相場のトレンドが出る前に相場から退場しないようにするためです。

さて、１ヵ月の投資資金が決まればあとは簡単です。１ヵ月から週末のトレーディングができない日を除きます。約20日で計算するとよいでしょう。

100万円割ることの20日で、1日5万円まで損が積み重なり損切りを繰り返しながら20連敗をすると1ヵ月で資金が枯渇することがわかりました。サイコロジカルでも10勝2負で相場の反転とされています。いくらなんでも20連敗は考えにくいです。

このように、1日のマイナス金額をイメージすることで、損切りの恐怖感を払拭できることが勝利への最短コースになります。

相場に合わせた資金配分を考える

今度は、相場に合わせて長期と短期トレードを組み合わせる方法を考えましょう。為替相場は、基本的にトレンドを常に形成しています。上げトレンド、下げトレンド、そしてレンジ相場に分けられます。

さて、みなさんが上げトレンドを完全に見極めた場合、どのようなトレードを行うでしょうか。もちろん、底値で買いバイ・アンド・ホールドで充分と思う方も多いのではないでしょうか。それでも、充分に利益を得ることは可能でしょう。2008年以降で考えてみると、ドル円で75円から125円までありましたので大底で拾い、高値で抜けることができれば66%の利益が確保できたことになります。

ただ、その2012年から2015年までの間に、波動の上下を捉えることでより利益を上げることができたはずです。それを行うには、ロングポジションをホールドする戦略と、スイングを短期でトレードする混合のトレード戦略があります。

ここでの資金配分は比較的簡単です。まず、大きなトレンドを見つけた場合、エントリー金額を30%以内に留めます。その後、トレンドに騙しがないことを確認しつつ、上昇するところを追いかけながら買いを入れていきます。そこで使う額も30%以内にします。この時点で40%の余剰資金があります。この資金はとても大切です。

上昇の波動が落ち着き、必ず押し目買いのチャンスが訪れるその時までは、短期のトレーディングを行いながら資金を蓄えています。そして、第一回目の押し目がきた時に20%を使います。残りの20%はトレーディングをしながら、天井近くで下げ相場に備えた資金として残しておきましょう。

このように、相場が読めた！というようなときでも、全力の投資を行わないことが鉄則です。FXの世界には天才や神はいません。だからこそ、鉄則を守り、きちんとしたルールを維持することが大変重要になります。